

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第225集

ひき だ
引 田 遺 跡

2024

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

序

北設楽郡東栄町は愛知県北東部に位置します。地域は三河山地にあり、奥三河とも呼ばれます。東は静岡県に北は長野県に接します。そのため天竜川、豊川、矢作川の三水系に属し、さまざまな交流と影響により、独自の生活と文化が育まれてまいりました。近年、この地域も大きく開発が進み、設楽ダムの建設とこれに伴う道路整備などが行われております。今回の発掘調査はこれに伴うものであります。

引田遺跡は戦前より知られており、1985年には圃場整備事業に伴う調査が行われています。東栄町内で愛知県埋蔵文化財センターは平成二年度に上の平遺跡の発掘調査を行なっており、町内では三十年ぶり二回目の調査であります。この調査によって新たな遺構・遺物が確認され、より一層知見を深めるものとなりました。本書により地域の歴史がなおいっそう明らかになることを期待するものです。

最後に発掘調査にあたりまして御理解、御協力をいただきました地元住民の方々をはじめ、関係者並びに関係機関に御礼を申し上げます。

令和6年3月

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
理事長 岡本 範重

例言

1. 本書は愛知県北設楽郡東栄町大字月に所在する引田遺跡(遺跡番号 710005)の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は道路改良工事(国)473号(月バイパス)(D13)に伴うもので、愛知県建設局道路建設課より愛知県県民文化局を通じて委託され、公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターが実施した。発掘調査の現場作業は株式会社波多野組と橋本技術株式会社(測量)に業務委託した。整理作業及び報告書作成は本センターが行った。
3. 調査期間は令和4年1月～3月である。
4. 調査は酒井俊彦が担当した。
5. 調査に際して以下の関係機関から指導・協力を受けた。
愛知県県民文化局文化部文化芸術課文化財室・愛知県埋蔵文化財調査センター・愛知県新城設楽建設事務所
6. 遺物実測と実測図トレースについては株式会社イビソクに業務委託した。
7. 本書の編集と本文の執筆は、明示したものを除いて酒井俊彦が行った。
8. 今回の調査で使用した座標は、国土交通省告示に定められた国土座標(平面直角座標)第VII系に基づくものであり、海拔標高はT.P.(東京湾平均海面高度)による。
9. 調査記録(図面・写真資料・日誌等)は本センターが保管している。
10. 出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターが保管している。

目次

第1章 調査の概要

第1節 調査の経緯と経過

- 1.調査の経緯..... 1
- 2.調査の経過..... 1

第2節 遺跡の立地と環境

- 1.地理的環境..... 2
- 2.歴史的環境..... 2

第2章 遺構

第1節 基本層序..... 5

第2節 遺構

- 1.弥生時代..... 5
- 2.古代～中世..... 6
- 3.その他の時期..... 6

第3章 遺物

第1節 土器

- 1.縄文時代..... 10
- 2.弥生時代..... 10

第2節 石器

- 1.旧石器時代～縄文時代..... 10
- 2.縄文時代..... 10
- 3.弥生時代..... 10

第4章 自然科学的分析

引田遺跡における地下層序..... 13

第5章 総括..... 17

図表目次

第1図 調査区位置図 (1/2000)	1
第2図 遺跡位置図.....	3
第3図 周辺の遺跡.....	4
第4図 082SK・085SK土器出土位置.....	6
第5図 200SB (1/100)	6
第6図 土坑平面・断面図 (1/50)	7
第7図 A区西壁断面 (1/100)	8
第8図 A区南壁断面 (1/100)	8
第9図 A区全体図 (1/200)	8
第10図 B区東壁断面 (1/100)	9
第11図 B区南壁断面 (1/100)	9
第12図 B区全体図 (1/200)	9
第13図 出土土器 (1/4)	11
第14図 出土石器 (1/3)	12
第15図 深掘調査地点.....	15
第16図 深掘前状況 (北西から)	15
第17図 深掘りによる地層の堆積状況 (北から)	16
第18図 引田遺跡21B区の深掘りによる地質柱状図.....	16
第19図 1985年調査範囲 (1/1000)	18

第1章 調査の概要

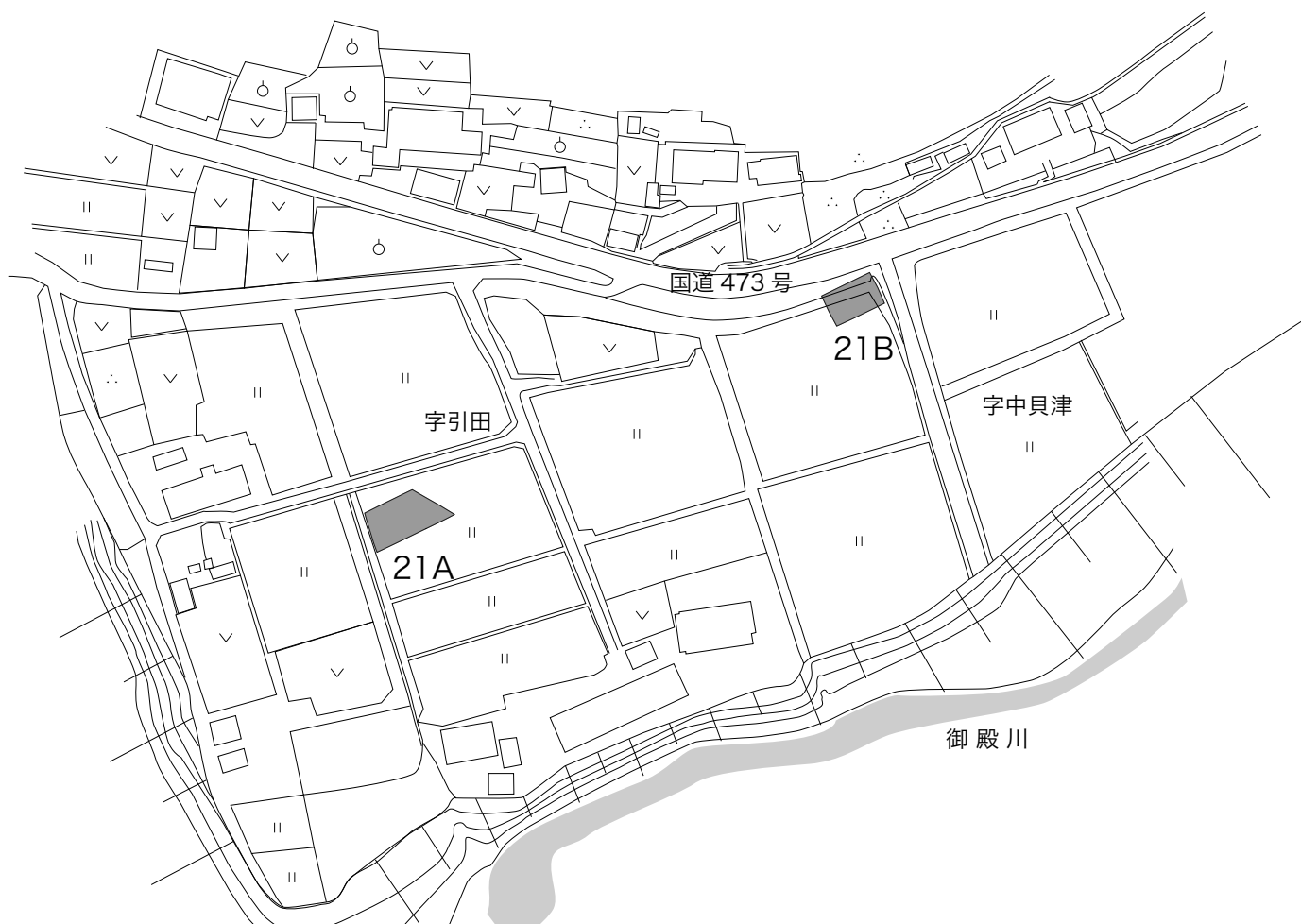
第1節 調査の経緯と経過

1. 調査の経緯

引田遺跡は愛知県北設楽郡東栄町大字月字引田・字中貝津に所在する。本遺跡の調査は道路改良工事(国)473号(月バイパス)(D13)に伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じて愛知県建設局道路建設課より委託を受けて実施した。調査期間は令和4年1月から同年3月である。本調査に先立ち令和元年9月に愛知県埋蔵文化財調査センターにより遺跡の範囲確認調査が行われている。この結果から道路用地内遺跡範囲中央部に21A区、東側の現国道473号線に接続する部分に21B区を設置した。調査面積は400㎡である。

2. 調査の経過

愛知県教育委員会の試掘調査では遺跡西辺を画している南北に走る御殿川の東岸から473号線接続地点までの間に10ヶ所のトレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認した。その結果、遺跡の道路用地内範囲では地山面まで削平されている部分が多く、遺存状態が比較的良好な部分は狭い範囲であることが判明した。このような経緯から遺跡中央部に21A区、東部に21B区を設定した。両調査区とも1面調査を予定した。令和4年1月下旬より21A区から調査を開始した。2月中旬から21B区の調査を行い、同年3月上旬に終了した。諸般の事情により、地元説明会は開催できなかった。この代替措置として、同年5月から7月まで調査の概要説明の動画を当センターのホームページを経由する形でYouTube上で公開した。



第1図 調査区位置図(1/2000)

第2節 遺跡の立地と環境

1. 地理的環境

本遺跡が所在する北設楽郡東栄町は愛知県の北東部に位置する(第2図)。この地域は奥三河地方と言われ、三河山地の一角を占める。遺跡は同町大字月字引田に所在し、町内西部に位置する。東栄町は東側は静岡県浜松市に接し、南側は新城市、西側は同郡設楽町、北側は同郡豊根村に接する。豊根村は北側を長野県に接する。この地域は日本最長の大断層である中央構造線の内帯にあたり、地質構造からは領家変成帯に属する。この大断層に斜交して小断層が走り複雑な地質構造を形成している。このため地形的に複雑な様相を示す。また、水系的に豊川、天竜川、矢作川の3水系が存在する。

遺跡は天竜川水系に属する御殿川左岸に立地する。遺跡の北方には御殿山(標高789.3m)があり、この山塊から尾根筋が伸びて遺跡の北側に達する。遺跡はこの尾根の末端を取り巻いて張り出す河岸段丘上に位置する(第3図)。標高は約290mを測る。御殿川は三河山地带を設楽町方面から東に流れて大千瀬川に合流し、本遺跡から十数km下って本流の天竜川に注ぎ込む。御殿川は遺跡西側で南に方向を変え、河岸段丘先端で北東に向きを戻して遺跡を西から東側に巡っている。御殿川に面する段丘端は急斜面であり、川面と段丘平坦部との比高差は約10mを測る。河岸段丘は平面的に南に張り出す三日月状の形をしており、これが大字名である「月」の由来であるとの説がある。河岸段丘は南に緩やかに傾斜し、この傾斜地の大部分が遺跡範囲となる。現在は階段状の水田が多くを占め、その他畑地と住宅地として利用されている。

2. 歴史的環境

東栄町内で遺跡地図に掲載されて認知されている遺跡は118とされる。集落跡および遺物散布地は111遺跡、古墳2基、城跡4遺跡、窯跡1遺跡となっている。時代別では旧石器時代遺跡は確認されていないが、収蔵されている遺物としては1遺跡で出土している。縄文時代になると大幅に増加し、55遺跡が確認されている。時期的には中期が最も多く、後期、晩期が続く。主な遺跡としては桜平遺跡、大野遺跡、中林遺跡、上の平遺跡、引田遺跡などがある(第3図)。弥生時代は26遺跡であり、弥生時代概念の変更と資料の再検討により近年増加している。主な遺跡としては糸百合遺跡、西向遺跡などがある。古墳時代は大森古墳群と下平遺跡の2遺跡がある。古代の遺跡は31遺跡が確認されている。主な遺跡としては下平遺跡、大森遺跡、越貝津遺跡がある。中世以降の遺跡については100遺跡以上あるとされる。多くは採取遺物によって推定されるもので遺跡の内容については不明確である。その中でブヤキ古窯は郡内にある平安時代末から鎌倉時代初期の窯跡として有名である。中世・近世城跡として設楽城跡、亀ヶ城跡がある。

東栄町は大規模な土地開発や土地改変が少ないため、これに伴う遺跡の発掘調査これまであまり行われてこなかった。この状況で当センターが平成2年10月から平成3年3月に行った上の平遺跡の調査は比較的大規模なものであった。調査の結果、縄文時代前期から弥生時代中期の遺構・遺物が確認されている。縄文時代では前期・中期・晩期の土器と石鏃、打製石斧、スクレイパーなどの石器類と石製品が出土した。弥生時代では竪穴建物1棟が検出され、中期の土器類が出土している。

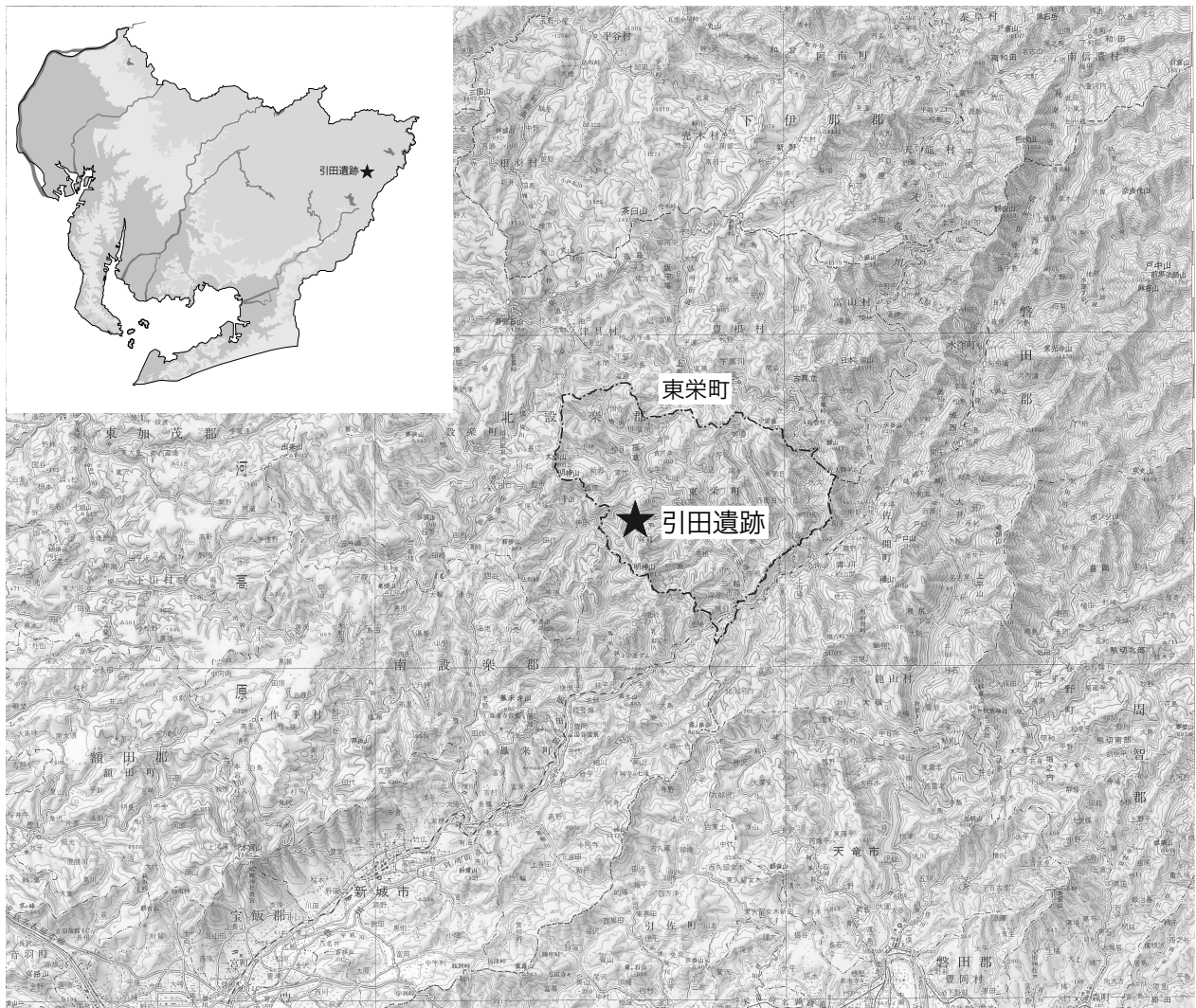
引田遺跡は第二次世界大戦中の開田工事中に出土遺物があり、その存在が知られるようになった。この時の縄文時代後期から弥生時代の遺物が大量に残されている。中心になるのは土器棺墓となる条痕文土器類である。その後1985年の圃場整備事業にともなって愛知県教育委員

会による立ち会い調査が行われた。調査は河岸段丘上の耕作地二十数面、字引田を中心に字中貝津、字木戸において行われた。遺物は縄文時代前期から晩期が中心となる。後期、晩期の遺物出土が多く、遺構として埋設土器、配石遺構が確認されている。出土遺物は容量 27 リットルのコンテナ 20 箱程度である。縄文土器としては深鉢土器のほか、壺型土器と注口土器および加工円盤が出土している。石器および石製品として石鏃、石錐、石匙、スクレイパー、打製石斧、摩製石斧、石錘、敲石、石棒などが出土している。これらは字引田を中心に確認されている。この時の調査では弥生時代の遺物も出土している。字引田において前期および中期土器、字中貝津で前期土器が確認された。

今回の調査では平安時代末から中世初期の山茶碗が出土している。これと関連すると考えられるのが西方約 2.5km に所在するブヤキ古窯である(第 3 図)。遺跡は 1958 年に東栄町によって調査が行われ、窯体 1 基が確認されている。渥美・湖西窯第 4～5 型式の山茶碗が出土している。三河山間部および東栄町において古代から中世において確認された唯一の窯跡となる。

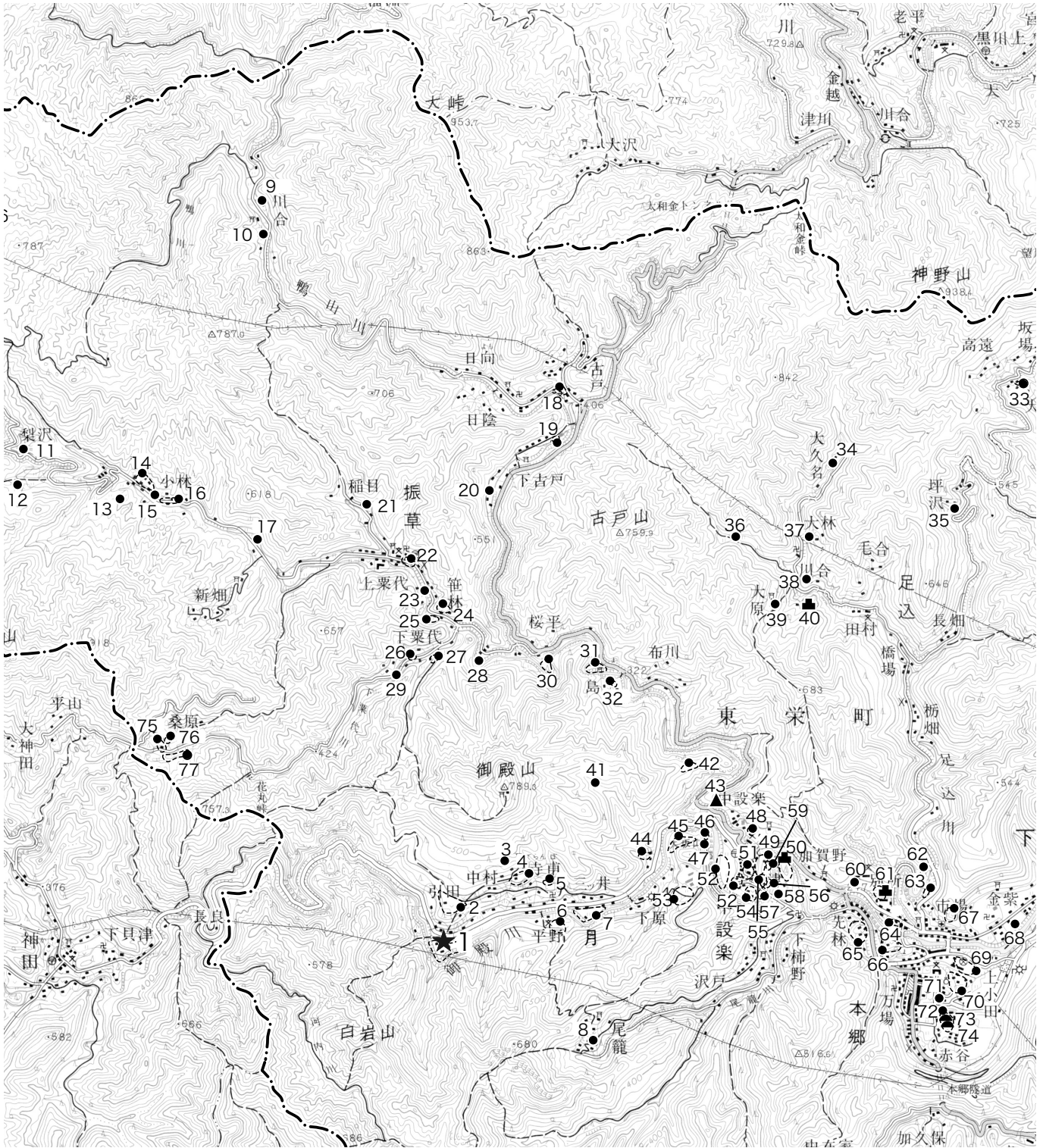
参考文献

- 鈴木富美夫編北設楽郡史編纂委員会『北設楽郡史原始 - 中世』1968
- 東栄町誌編集委員会『東栄町誌 自然・民俗・通史編』2007
- (財) 愛知県埋蔵文化財センター『上の平遺跡』1992



第 2 図 遺跡位置図

国土地理院発行 1/200000 地勢図「伊良湖岬」使用



- | | | | | | |
|----------|-----------|-----------|------------|----------|----------|
| 1 引田遺跡 | 14 上日向遺跡 | 27 黒内遺跡 | 40 中林城跡 | 53 坂甫遺跡 | 66 寄近遺跡 |
| 2 半場遺跡 | 15 中日向遺跡 | 28 向黒瀬遺跡 | 41 峯山遺跡 | 54 越貝津遺跡 | 67 高根遺跡 |
| 3 白鳥遺跡 | 16 下日向遺跡 | 29 紙屋貝津遺跡 | 42 牧遺跡 | 55 西貝津遺跡 | 68 梅ノ本遺跡 |
| 4 平野遺跡 | 17 柏原遺跡 | 30 布川桜平遺跡 | 43 ブヤキ古窯跡 | 56 和田下遺跡 | 69 桜平遺跡 |
| 5 引田遺跡 | 18 久満土遺跡 | 31 平遺跡 | 44 沢谷ヶ遺跡 | 57 的場遺跡 | 70 上小田遺跡 |
| 6 向平遺跡 | 19 糸百合遺跡 | 32 嶋遺跡 | 45 テンゴン塚遺跡 | 58 川端遺跡 | 71 浅井遺跡 |
| 7 下平遺跡 | 20 柿平遺跡 | 33 大野遺跡 | 46 コハゼ遺跡 | 59 城市遺跡 | 72 大森遺跡 |
| 8 尾呂遺跡 | 21 稲目遺跡 | 34 大久名遺跡 | 47 西向遺跡 | 60 宮平遺跡 | 73 大森1号墳 |
| 9 古戸川合遺跡 | 22 中村遺跡 | 35 坪沢遺跡 | 48 上の平遺跡 | 61 別所城跡 | 74 大森2号墳 |
| 10 青瀬遺跡 | 23 小田遺跡 | 36 吐原遺跡 | 49 越貝津遺跡 | 62 峯山遺跡 | 75 西貝津遺跡 |
| 11 梨沢遺跡 | 24 田口貝津遺跡 | 37 大林遺跡 | 50 設楽城跡 | 63 上ノ原遺跡 | 76 東貝津遺跡 |
| 12 大平遺跡 | 25 笹林遺跡 | 38 川合遺跡 | 51 中貝津遺跡 | 64 中前畑遺跡 | 77 桑原遺跡 |
| 13 林遺跡 | 26 大屋路遺跡 | 39 大原遺跡 | 52 富田遺跡 | 65 山端遺跡 | |

第3図 周辺の遺跡

国土地理院発行 1/50000 地形図「田口」使用

第2章 遺構

第1節 基本層序

本遺跡は緩やかに南に傾斜する河岸段丘上に立地する。21A区は段丘のほぼ中央に位置しており、現水田耕作地である。21B区は段丘の北東隅、国道473号線に接する位置にあり、この地点も現水田耕作地である。現在は二つの調査区とも平坦な地形である。

21A区(第7・8図)

第1層は現水田の耕作土で粗砂と小礫を含む黒褐色シルトである。1985年に行われた圃場整備事業による盛り土で耕作による影響が及ぶ深さ20cm程度の土層である。第2層は盛り土部分である。黒褐色シルトで小礫と地山の褐色シルトブロックを多く含む。調査区西半部分ではこの下層が褐色シルトを主体とする地山となる。調査区東半では第3層として黒色シルト層が広がる。この層は圃場整備以前の表土で水田ないしは畑作の耕作土と推定される。調査区中央部では数cmである。地山面は西に向かって下がるため第3層は深くなって調査区西部で20cm程度になる。第4層は黒色シルトと褐色シルトの漸移層である。調査区南東部に広がっており、地山が第3層の影響を受けた層である。下面が褐色シルトの地山層である。遺構検出は調査区西部の第2層が地山面に接する部分ではこの下面で行ない、調査区西部では第3層の下面で行った。圃場整備事業によって第2層下面まで削平され、調査区西部では重機械によって地山下まで水平に削り込まれている。調査区東部では地山面が下がっているため旧表土層が部分的に残り、条痕文土器など地山を掘り込んで設置されている遺物が検出されている。全体的に圃場整備事業の土地改変によって遺構の遺存状況は悪い。

21B区(第10・11図)

第1層は小礫を含む黒色土層である。圃場整備事業による盛り土で耕作による影響が届く深さ20cm程度の土層である。第2層は盛り土で黒褐色シルト層で地山である暗褐色シルトブロックを含む。第3層は黒色シルトである。大礫や小礫を多く含むことから耕作土用の土壌ではない。地山斜面を削っていることから重機によって平坦にして耕作地の水平面を作るための盛り土と推定される。0.3～0.4mの層厚である。第4層は黒色シルトである。0.3～0.4mの層厚である。圃場整備前の表土層である。斜面地であるため畑作の耕作土と推定される。第5層は黒褐色シルトである。第4層と地山層との漸移層である。第6層は黒色シルト層で調査区の南西部にのみ広がる。第5・6層の下面が褐色シルトの地山面となる。縄文土器が少量含まれるため第4層堆積前の表土層であると推定される。遺構検出は地山面直上で行った。調査区は現在水平な水田耕作地であるが、圃場整備前は南に傾斜する斜面である。南側8割の面積が重機による削平を受けている。調査区中央部などに重機による掘削の攪乱があり、地山が掘り込まれている。全体として遺構の遺存状況は悪い。

第2節 遺構

1. 弥生時代

082SK・085SK(第4図) 21A区南東隅で検出された。深さ5cm程度の浅い落ち込み状の土坑で本来一体の遺構である。082SKは長径1m、085SKは長径0.5mを測る。同一個体の条痕文土器の甕が出土した。土器の側面が地山に接しており、横にした状態で埋設したと推定される。

099SK(第9図) 21A区中央部で検出された。太形蛤刃石斧が出土していることからこの時期

の可能性がある。

その他、21A区においてこの時代の土器である条痕文土器が確認される土坑が多数あり、この時代の可能性が高い。出土量が少量であり、掘立柱建物の柱穴である土坑から出土していることから、後述のように古代から中世の時期に属するものが大部分である。

2. 古代～中世

21A区の中央から東部にかけて土坑群が検出されている(第6・9図)。長径は0.6m以下、深さは0.5m以下で平面が楕円形ないし円形に近く、掘立柱建物の柱穴の可能性が高いものである。埋土は黒褐色シルトないし黒色シルトとなる。これらのうち30基ほどから条痕文土器が出土している。また075SKと083SKより渥美・湖西窯第4型式山茶碗が出土している。遺構の性格上、これらの大部分は12世紀の平安時代末から中世初めの時期に属す。

200SB(第5図)21A区中央で検出された掘立柱建物である。南北軸長約6m、東西軸長約3mである。南北軸が約40°西に傾く。柱間は5間×2間である。長辺の柱間は0.8～1.6m、短辺で1～1.7mとなる。柱穴である土坑の長径は0.2～0.5m、深さは0.3m～0.4mを測る。埋土は黒色シルトないしは黒褐色シルトを主体とする。このうち3基から条痕文土器が少量出土しているが、弥生時代ではなく、平安時代末から中世初めの時期に属するものである。

3. その他の時期

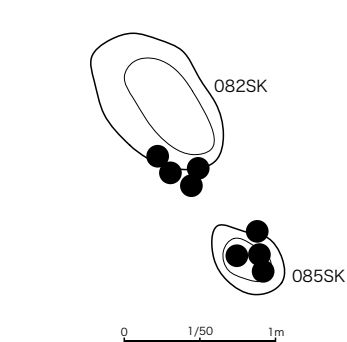
021B区で18基の土坑が検出されたが、遺物が出土しないため時期を確定できない。119SKが近世の礎石建物の柱穴の可能性が高く、これらは同時期と推定できる。

073SK(第6図)21A区東部で検出され、長径2.3m、短径0.8m、深さ0.3mを測る。埋土は黒褐色シルトである。条痕文土器片が出土している。大形で古代・中世の土坑よりやや明るい色の埋土であり、掘り方が垂直に近い。時期は不明である。

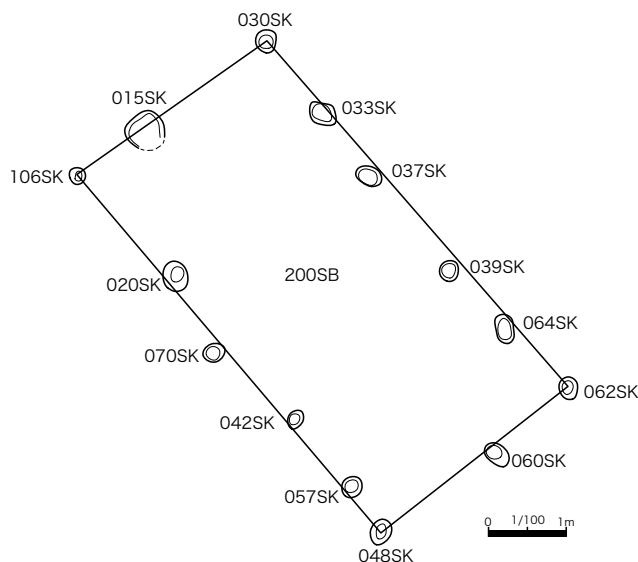
090SK(第6図)21A区東部で検出され、長径1.8m、短径0.7m、深さ0.1mを測る。埋土は黒褐色シルトである。遺物は出土していない。073SKと同様の埋土で長軸が似通った方向を取るため時期と性格が同じ可能性がある。

119SK(第6図)21B区中央部南より検出された。長軸0.7m、短軸0.6m、深さ0.2mを測る。埋土は黒色シルトである。西半部に長軸0.4m、深さ0.3m、厚さ0.2mの平面方形で上面が平らな石が埋設されている。これは礎石と推定され、近世以降の礎石建物の柱穴の可能性が高い。

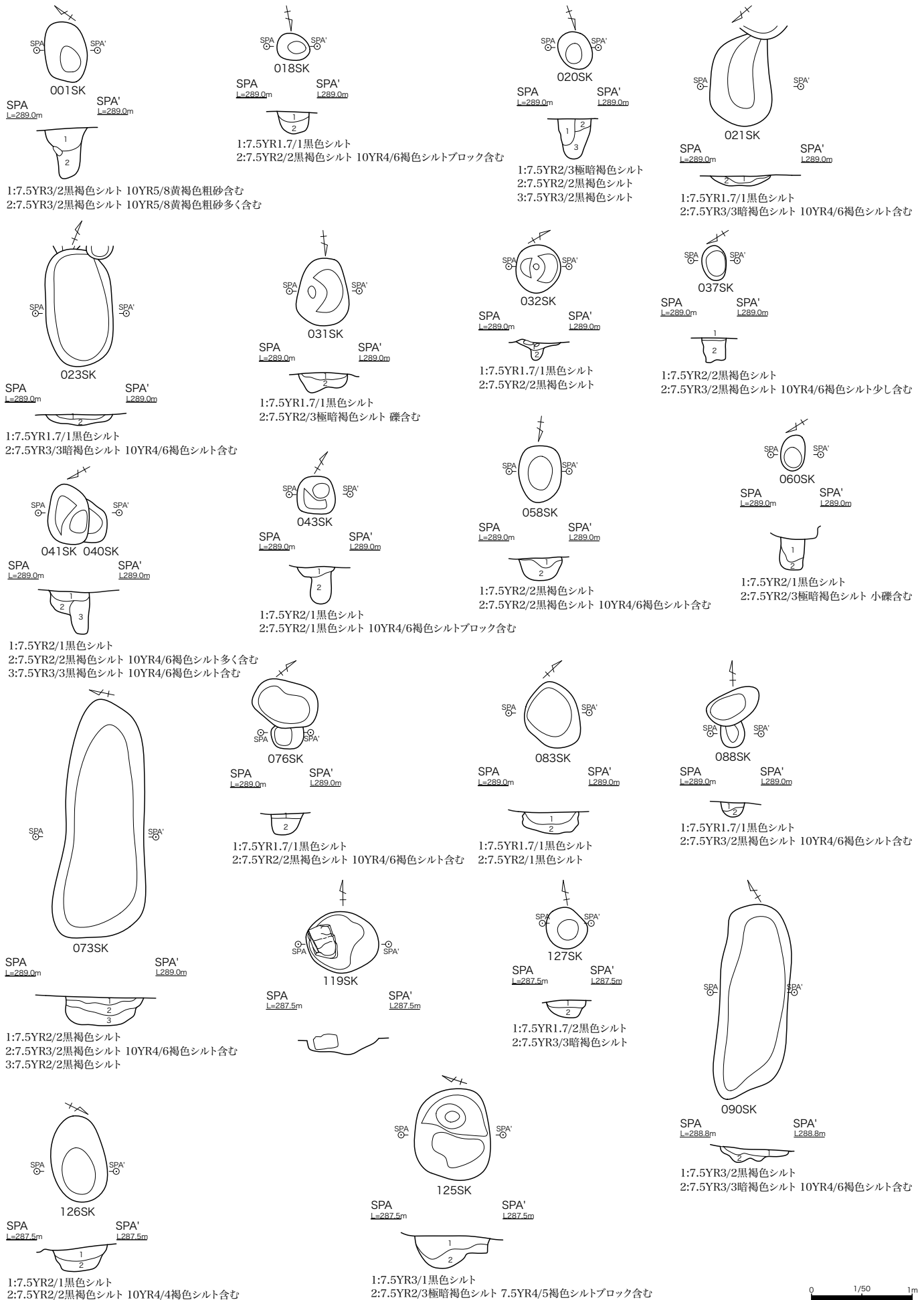
130SK(第12図)21B区南東部で検出された。長径0.4m、深さ0.1mを測る。埋土は極暗褐色シルトである。縄文時代前期の可能性のある土器が1点のみ出土している。時代は確定できない



第4図 082SK・085SK 土器出土位置



第5図 200SB (1/100)

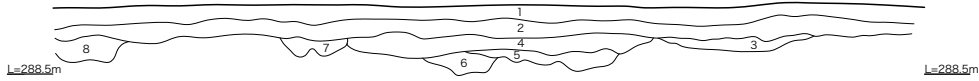


第6図 土坑平面・断面図(1/50)



SPB
L=290m

SPB'
L=290m

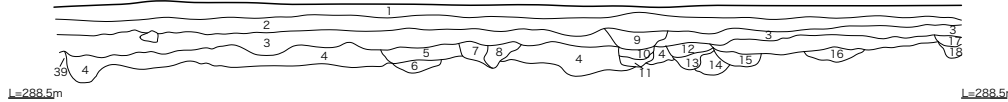


- 1:5YR2/2黒褐色シルト 粗砂・小礫含む(現耕作土)
- 2:5YR1.7/1黒色シルト 礫(径1~2cm)多く含む 10YR4/6褐色シルトブロック・粒含む(盛土)
- 3:5YR2/2黒褐色シルト 10YR4/6褐色シルトブロック・粗砂含む
- 4:7.5YR2/2黒褐色シルト 小~中礫少し含む 10YR4/6 褐色粗砂含む
- 5:7.5YR2/1黒色シルト 10YR4/6褐色粗砂30%含む
- 6:7.5YR2/1黒色シルト 10YR4/6褐色粗砂多く含む
- 7:7.5YR3/3暗褐色シルト 10YR4/6褐色粗砂含む
- 8:7.5YR2/2黒褐色シルト 10YR4/6褐色粗砂含む

第7図 A区西壁断面(1/100)

SPA
L=290m

L=290m

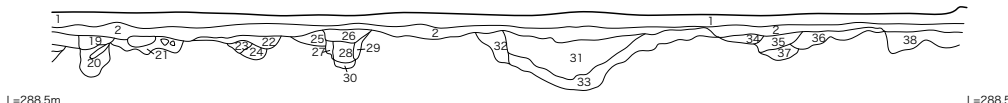


L=288.5m

L=288.5m

L=290m

SPA'
L=290m



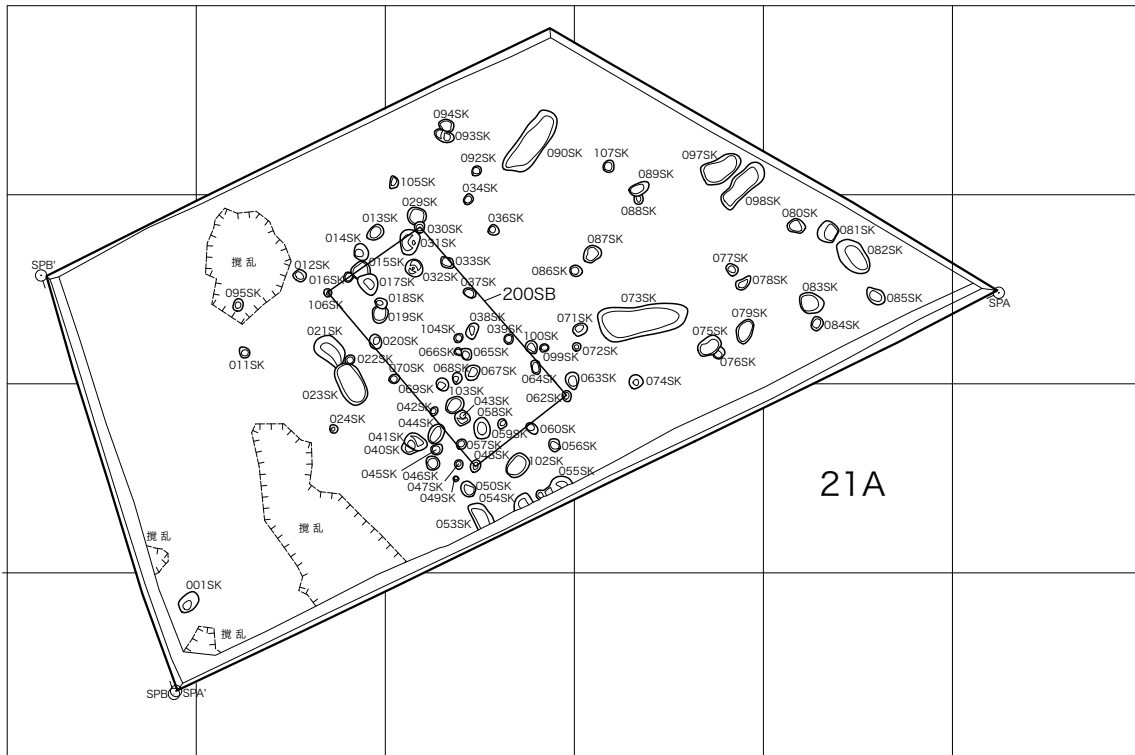
L=288.5m

0 1/100 1m

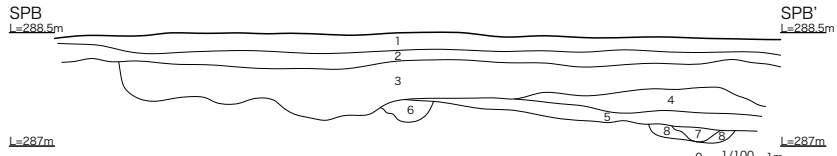
L=288.5m

- 1:5YR2/2黒褐色シルト 粗砂・小礫含む(現耕作土)
- 2:5YR1.7/1黒色シルト 礫(径1~2cm)多く含む 10YR4/6 褐色シルトブロック粒含む(盛土)
- 3:7.5YR1.7/1黒色シルト(旧表土)
- 4:7.5YR2/2黒褐色シルト(基盤層への移行層)
- 5:7.5YR3/2黒褐色シルト
- 6:7.5YR3/3暗褐色シルト
- 7:7.5YR2/1黒色シルト
- 8:7.5YR3/2黒褐色シルト
- 9:7.5YR1.7/1黒色シルト
- 10:7.5YR2/2黒褐色シルト
- 11:7.5YR2/1黒色シルト
- 12:7.5YR2/2黒褐色シルト
- 13:7.5YR2/2黒褐色シルト 10YR4/6褐色シルト粒含む
- 14:7.5YR3/3暗褐色砂
- 15:7.5YR3/3暗褐色シルト
- 16:10YR3/3暗褐色シルト
- 17:7.5YR2/3極暗褐色シルト
- 18:7.5YR2/3極暗褐色シルト 10YR4/6褐色シルト粒多く含む
- 19:7.5YR1.7/1黒色シルト
- 20:7.5YR1.7/1黒色シルト 10YR4/6褐色シルト粒含む
- 21:7.5YR2/2黒褐色シルト
- 22:7.5YR2/1黒色シルト
- 23:7.5YR3/2黒褐色シルト
- 24:7.5YR2/2黒色シルト
- 25:7.5YR2/3極暗褐色シルト
- 26:7.5YR2/1黒色シルト
- 27:7.5YR2/3極暗褐色シルト
- 28:7.5YR2/1黒色シルト
- 29:7.5YR3/2黒褐色シルト 10YR4/6褐色粗砂含む
- 30:7.5YR2/3極暗褐色シルト
- 31:7.5YR2/1黒色シルト
- 32:7.5YR3/2黒褐色シルト 10YR4/6褐色粗砂多く含む
- 33:10YR4/6褐色粒砂 7.5YR2/1黒色シルトブロック・粒含む
- 34:7.5YR1.7/1黒色シルト
- 34:7.5YR1.7/1黒色シルト
- 35:7.5YR2/2黒褐色シルト
- 36:7.5YR3/3暗褐色シルト
- 37:10YR3/3暗褐色シルト 10YR4/6褐色粗砂多く含む
- 38:7.5YR2/2黒褐色シルト 10YR4/6褐色粗砂含む
- 39:7.5YR2/1黒色シルト

第8図 A区南壁断面(1/100)

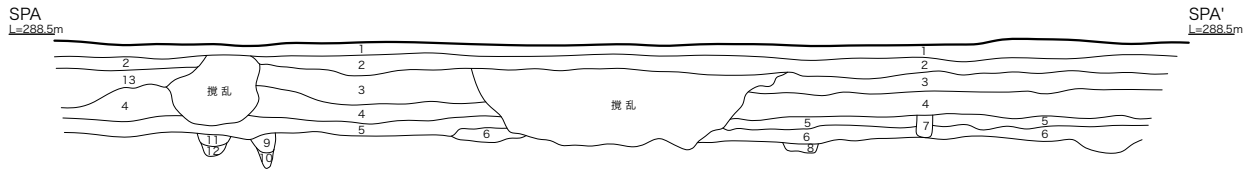


第9図 A区全体図(1/200)



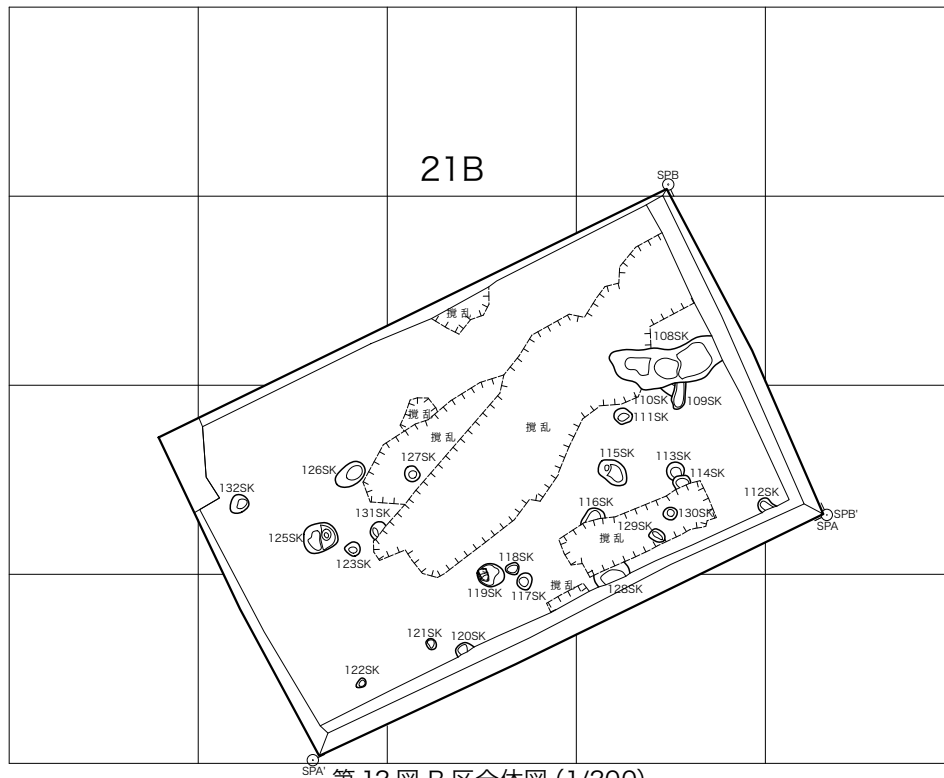
- 1:7.5YR2/1黒色シルト 小礫少し含む(現耕作土)
- 2:7.5YR2/2黒褐色シルト 10YR3/4暗褐色シルトブロック・粒含む(耕作土用盛土)
- 3:7.5YR2/1黒色シルト 10YR4/4褐色シルト粒含む 径10cm程度の礫含む 小礫多く含む(盛土)
- 4:7.5YR1.7/1黒色シルト 大礫少し含む(旧表土)
- 5:7.5YR2/2黒褐色シルト 小礫少し含む
- 6:10YR2/3黒褐色シルト(倒木痕)
- 7:7.5YR2/1黒色シルト
- 8:7.5YR2/2黒褐色シルト

第10図 B区東壁断面(1/100)



- 1:7.5YR2/1Y黒色シルト 小礫少し含む(現耕作土)
- 2:7.5YR2/2黒褐色シルト 10YR3/4暗褐色シルトブロック・粒含む(耕作土用盛土)
- 3:7.5YR1.7/1黒色シルト 大礫少し含む 10YR3/4暗褐色シルト粒少し含む(盛土)
- 4:7.5YR1.7/1黒色シルト 大礫少し含む(旧表土)
- 5:7.5YR2/2黒褐色シルト 小礫少し含む
- 6:7.5YR2/1黒色シルト 小礫含む
- 7:7.5YR2/1黒色シルト 粗砂多く含む
- 8:7.5YR2/2黒褐色粘土
- 9:7.5YR2/2黒褐色シルト 7.5YR2/1黒色シルトブロック含む
- 10:10YR3/4暗褐色シルト 10YR4/4褐色シルト粒・ブロック多く含む
- 11:7.5YR2/1黒色シルト 10YR4/4褐色シルト粒含む
- 12:7.5YR2/3極暗褐色シルト
- 13:7.5YR2/1黒色シルト 10YR4/4褐色シルト粒含む 径10cm程度の礫含む 小礫多く含む(盛土)

第11図 B区南壁断面(1/100)



第12図 B区全体図(1/200)

第3章 遺物

第1節 土器

1. 縄文時代(第13図1～8)

21A区から7点が遺構外より出土している。21B区で遺構内より1点が出土している。1は21B区130SK出土の深鉢体部で縦方向の縄文が施されている。縄文前期である。2は中期深鉢体部である。3・4は鉢的な器形で3は口縁部直下内面に、4は口縁直下外面に横方向沈線が施される。晩期の時期に属す。5は無文の深鉢口縁である。6は深鉢体部で頸部が無文で体部下半が擦痕となる。7は器種不明で横方向の沈線が施される。これらは後期から晩期の時期である。8は平行沈線による文様が施される深鉢で時期不明である。

2. 弥生時代(第13図9～42)

体部外面に条痕が施されるいわゆる条痕土器である。全て21A区より出土した。

(1) 遺構内出土遺物

18は082SKおよび085SKより出土した。器高約42cm、口径約30cmを測る。頸部がやや絞られる深鉢で単斜方向の条痕が施される。横倒して検出され、基盤層に接した下面のみ遺存した。いわゆる土器棺墓に使用されたものと推定される。9(013SK)10(031SK)13～16(074SK)17(078SK)は深鉢体部で単斜方向の条痕である。12(046SK)は口縁部で口縁端に条痕沈線原体による沈線が施される。11は深鉢の底部である。

(2) 遺構外出土遺物

口縁部(19～21)体部(22～39)底部(40～42)がある。口縁はやや内湾する20とやや外反する19・21がある。体部22・23は頸部に近い部分である。体部の26・27・37は羽状の条痕で、大部分は単斜方向である。40は小形、41・42はやや大形の深鉢底部である。

3. 中世

山茶碗が3点出土した。43・44は渥美・湖西窯第4型式の山茶碗である。43は中世の掘立柱建物の柱穴(075SK)から出土した。45は第5型式の山茶碗である。

第2節 石器

1. 旧石器時代～縄文時代(第14図S-1～S-3)

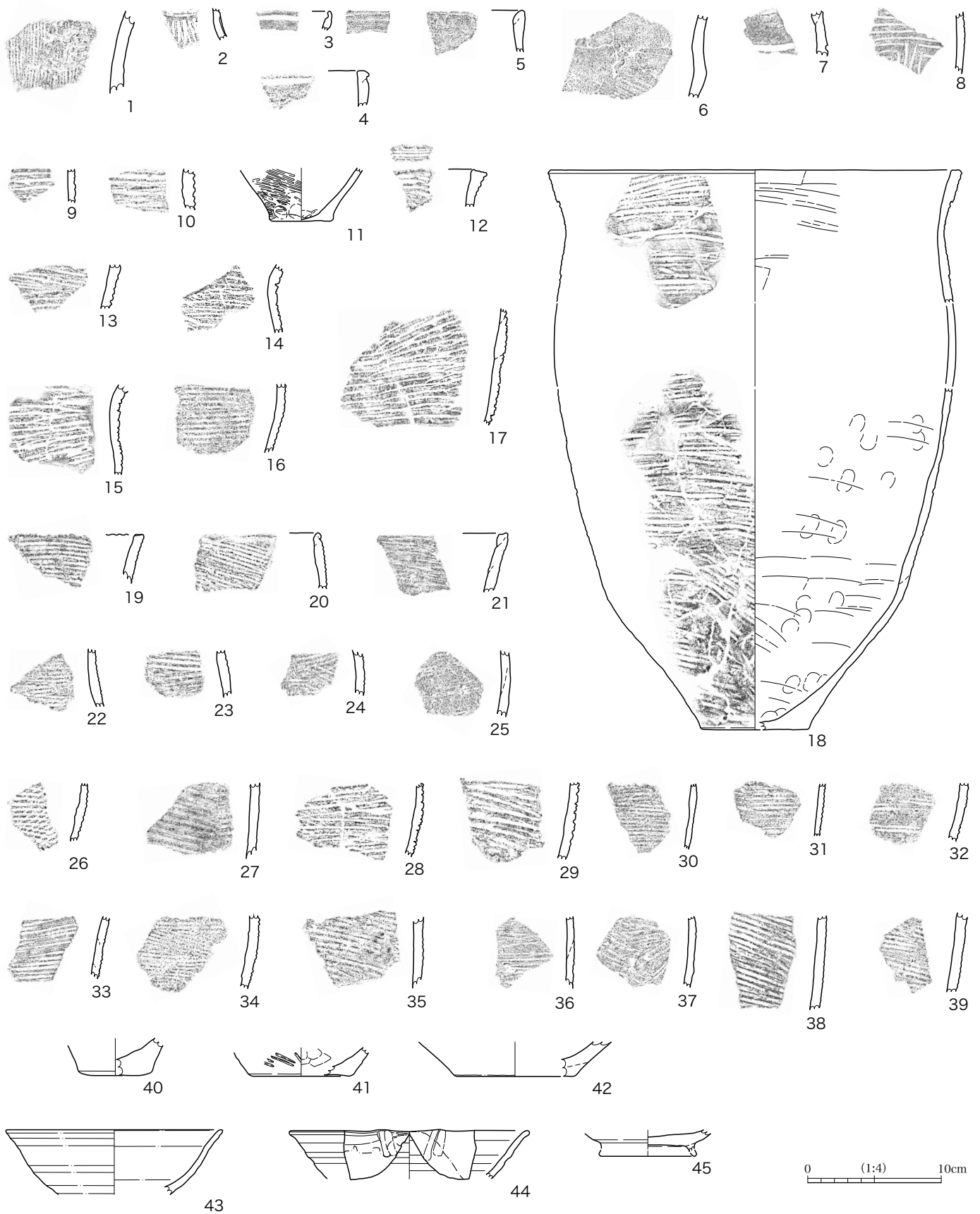
21A区より11点出土している。S-1は縦長剥片の一つの長辺に連続した細かい調整を施す削器で材質は溶結凝灰岩である。旧石器時代から縄文時代の時期である。S-2は剥片で材質は翡翠である。S-3は小形石核で材質はチャートである。

2. 縄文時代(第14図S-4～S-11)

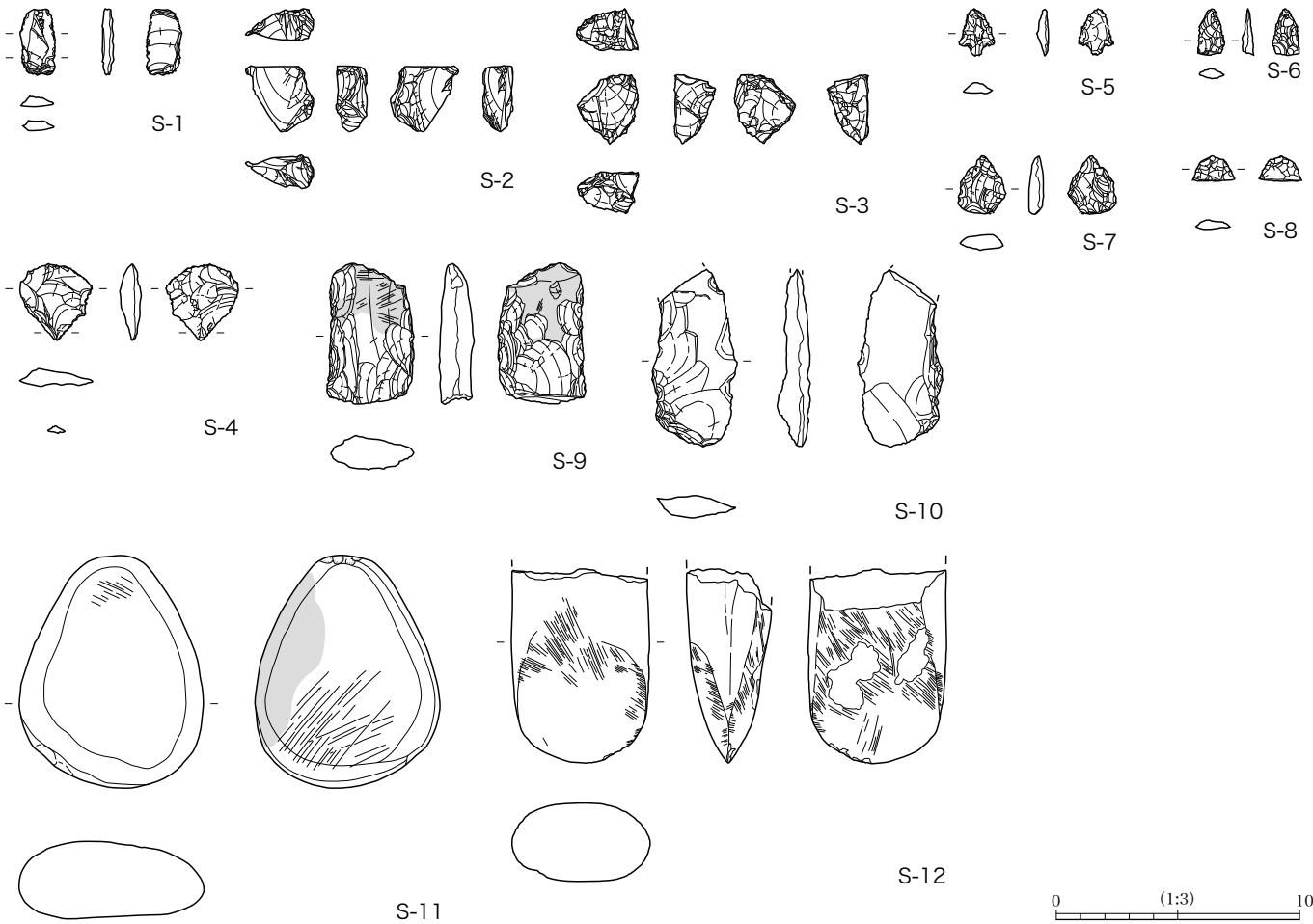
21A区より7点が出土している。S-4は石錐で材質はチャートである。S-5～S-7は石鏃である。材質はS-5が下呂石、S-6が黒曜石、S-7が溶結凝灰岩である。S-8は石器の残欠部分で削器または石鏃の一部である。S-9、S-10は打製石斧である。S-9は基部、S-10は先端部分である。材質はいずれも緑色岩である。S-11は石器全体に摩耗している扁平な丸石である。表裏に擦痕があり、頂部に叩打痕がある。材質は斑禰岩である。

3. 弥生時代(第14図S-12)

21A区より出土している。S-12は太形蛤刃石斧の刃部である。材質は緑色岩である。



第13图 出土土器 (1/4)



第 14 图 出土石器 (1/3)

第4章自然科学的分析

引田遺跡における地下層序

鬼頭 剛・古澤 明・株式会社パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

1. はじめに

愛知県北設楽郡東栄町の引田遺跡にて地下層序を観察する機会を得た。本論ではその層序解析、火山灰分析および放射性炭素年代測定の結果を報告する。

2. 試料および分析方法

調査区で遺構検出面からバックホウにより掘削し層序断面を露出させ、層序断面図の作成と試料採取を行なった。層序断面図の作成にあたり、層相・粒度・色調・堆積構造・化石の有無などの特徴を詳細に記載した。また、各調査区の層序断面からは火山灰分析、放射性炭素年代測定の試料を採取した。分析方法の詳細を以下に記す。

火山灰分析の試料は古澤 (2003) の方法を基本に前処理を行なった。はじめにナイロン製 #255 メッシュシート (糸径 $43\ \mu\text{m}$ 、オープニングワイド $57\ \mu\text{m}$) を用い、流水中で洗浄した。残渣を #125 メッシュシート (糸径 $70\ \mu\text{m}$ 、オープニングワイド $133\ \mu\text{m}$) により水中で篩い分けした。これにより極細粒砂サイズ ($1/8 \sim 1/16$) に粒度調整した試料を超音波洗浄器により洗浄し、表面に付着した粘土分などを洗い流した。薄片作成は、鉤物観察用スライドガラスの上に硬化後屈折率が 1.545 程度となる光硬化樹脂をのせ、この樹脂に洗浄・篩い分けを行なった試料を攪拌・封入させ、カバーガラスで覆い粒子組成観察用薄片を作成した。樹脂の屈折率を 1.545 とする目的は石英や長石類の識別にある。前処理・プレパラート封入した粒子について偏光顕微鏡 (100 倍) を用いて観察し、火山灰純層の場合 300 粒子 (1000 粒子の平均値) を古澤 (2003) の区別手法にしたがって区分した。また、火山灰固有で含有率の低い粒子の産出層準を特定するため 3000 粒子 (10000 粒子の平均値) の粒子組成分析も行なった。屈折率の測定には、浸液の温度を直接測定しつつ屈折率を測定する温度変化型測定装置“MAIOT”を使用した。測定精度は火山ガラスで ± 0.0001 、斜方輝石および角閃石で ± 0.0002 程度である (古澤, 1995)。火山ガラスの主成分分析について SEM は HITACHI 製 SUI510 を使用し、エネルギー分散型 X 線マイクロアナライザー (EDX) は HORIBA 製 EMAX ENERGY EX-270 を用いた。火山灰分析は古澤が行なった。

放射性炭素年代測定は加速器質量分析 (AMS) 法により測定を行なった。加速器質量分析法は $125\ \mu\text{m}$ の篩により湿式篩別を行ない、篩を通過したものを酸洗浄し不純物を除去した。石墨 (グラファイト) に調整後、加速器質量分析計 (パレオ・ラボ、コンパクト AMS: NEC 製 1.5SDH) にて測定した。測定された ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した ^{14}C 濃度を用いて ^{14}C 年代を算出した。 ^{14}C 年代値の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5,568 年を使用した。 ^{14}C 年代の暦年代への較正には OxCal4.4 (較正曲線データ: INTCAL20) を使用した。なお、 2σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された放射性炭素年代誤差に相当する 95.45% 信頼限界の暦年代範囲であり、カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。放射性炭素年代測定は株式会社パレオラボ AMS 年代測定グループが行なった。

3. 分析結果

調査区での試料採取

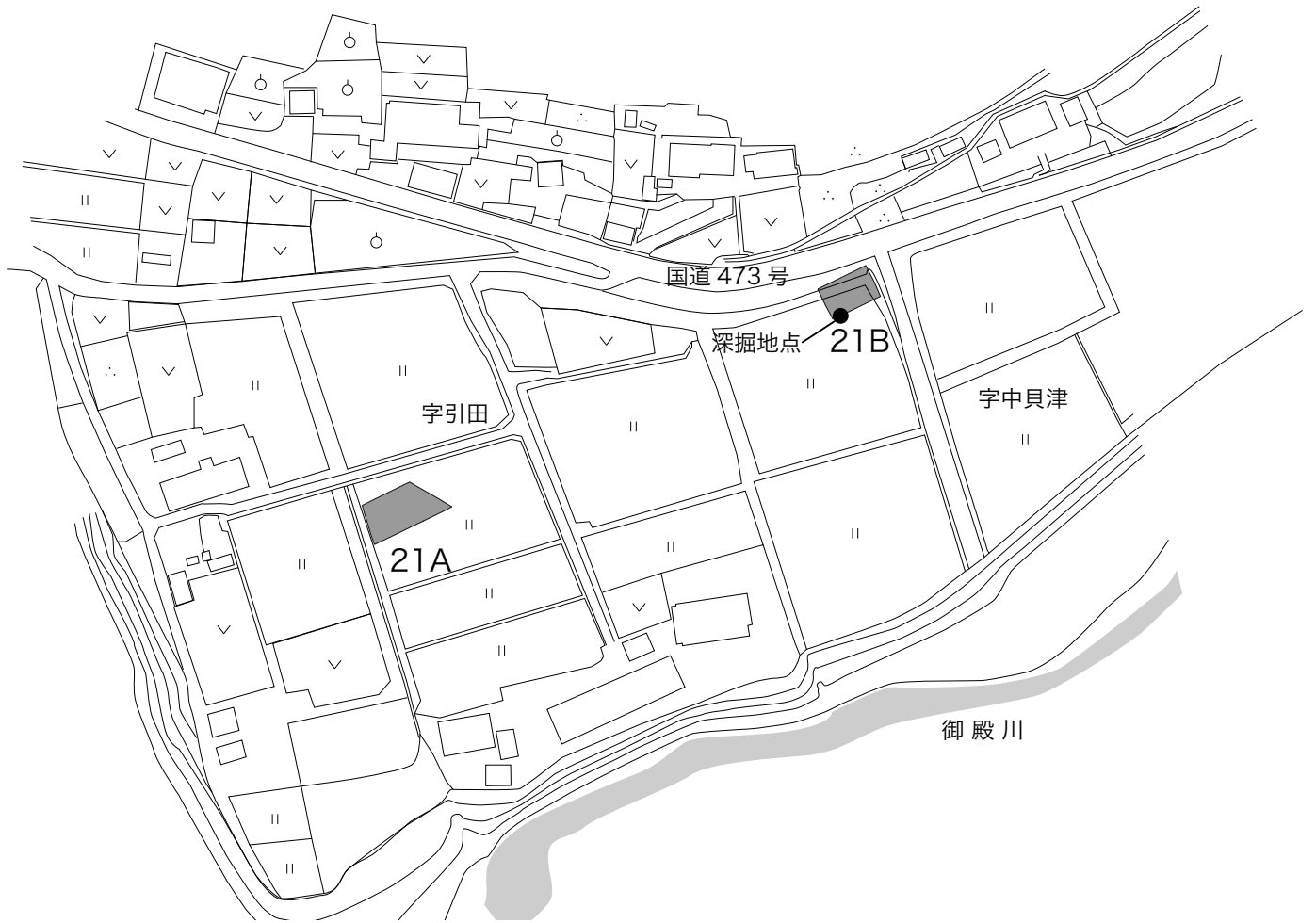
21B 区の調査区南側でバックホウによる深掘を行った(第 15・16・17・18 図)。下位層より、標高 285.94m ~ 286.44m は褐色~黄褐色を呈する巨礫層からなる。基質は細礫~極粗粒砂からなる基質支持礫層である。礫の円磨度は円礫~垂角礫である。礫径は約 30cm のものが多い印象を受けるが、中には長径(a 軸)が約 1.5m、中径(b 軸)が約 0.6m、短径(c 軸)が約 0.5m といった長径が 1m を超えるものもみられた。本層の下底、標高 285.96m より科学分析用の試料 1 を、本層の上部(標高 286.34m)で放射性炭素年代測定用の試料(14C1)を採取した。試料 1 の火山灰分析ではバブルウオールタイプの火山ガラスが微量含まれていた。この火山ガラスの主成分元素組成は K_2O 含有率が 4wt.% を超えるのが特徴的である。FeO 含有率は 1.2wt.% 程度、CaO 含有率は 0.7wt.% 程度付近にクラスターを形成する。このような特徴を示す後期更新統の火山灰は現在報告されておらず、ここではこれらの火山ガラスを主体とした火山灰を High-K 火山灰と仮称する。放射性炭素年代測定用の試料 14C1 では 6787-6666cal BP(PLD-49415)の数値年代が得られた。標高 286.44m ~ 286.87m は黄褐色の中礫層からなる。基質は細礫~極粗粒砂からなる基質支持礫層である。礫の円磨度は円礫~垂角礫よりなる。本層と下位層との層理面は円礫~垂角礫よりなる。本層と下位層との層理面は不明瞭で、礫径の違いにより層序区分される。本層の下底、標高 286.46m で科学分析用の試料 2 を採取し、火山灰分析を行ったが、火山灰は検出されなかった。標高 286.87m ~ 287.09m は黄褐色を呈する大礫層である。基質は細礫~砂に混じりシルトが混じるようになる。礫の円磨度は円礫~垂角礫よりなる。本層と下位層との層理面は礫径の大きさと基質にシルト成分が含まれてくることから層序区分される。本層の下部、標高 286.89m より科学分析用の試料 3 を採取し、火山灰分析を行ったところ、始良 Tn 火山灰(AT)が検出された。標高 287.09m ~ 287.19m は黒褐色を呈する粘土層である。細礫から巨礫までのあらゆるサイズの礫を含んでいる。地層中には砂粒子も分散し、堆積構造はみられない。本層と下位の礫層との層理面は色調の差から層序区分されるが、層理面は不明瞭であり、漸移的である。本層の頂部(標高 287.149m)が検出面となる。本層の標高 287.12m より科学分析用の試料 4 を採取した。本試料の火山灰分析では、High-K 火山灰(仮称)、始良 Tn 火山灰(AT)、鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah)が検出された。同じ試料(試料 4)を用いた放射性炭素年代測定では 6407-6302cal BP(PLD-49414)の数値年代であった。

謝辞

本論を作成するにあたり、放射性炭素年代測定では株式会社パレオ・ラボ AMS 年代測定グループの伊藤 茂氏・加藤和浩氏・廣田正史氏・佐藤正教氏・山形秀樹氏・Zaur Lomtadze 氏・小林克也氏にお世話になった。図表の作成では国際文化財株式会社にお手伝いいただいた。分析試料の整理・保管と原図の作成では整理補助員の前田弘子氏・鈴木好美氏にお手伝いいただいた。記して厚くお礼申し上げます。

文献

- 古澤 明, 1995, 火山ガラスの屈折率測定・形態分類とその統計的な解析, 地質学雑誌, 101, 123-133.
古澤 明, 2003, 洞爺火山灰降下以降の岩手火山のテフラの識別, 地質雑, 109, 1-19.
町田 洋・新井房夫, 2003, 新篇 火山灰アトラス [日本列島とその周辺], 東京大学出版会, 336.



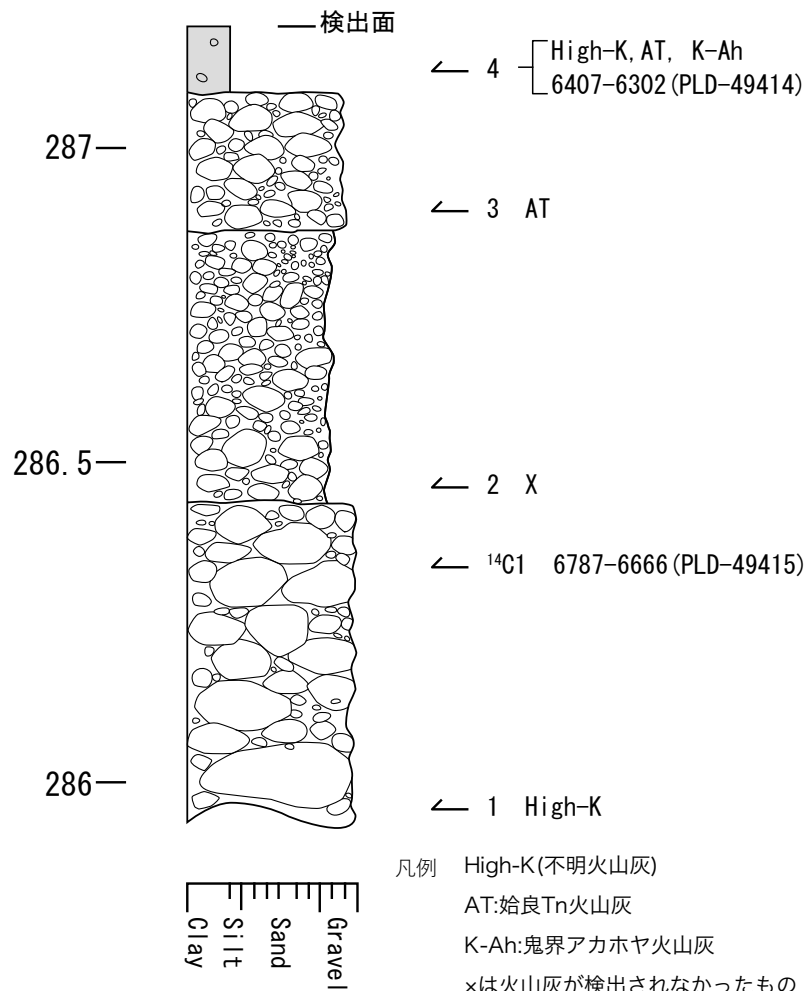
第 15 図 深掘調査地点



第 16 図 深掘前状況 (北西から)



第 17 図 深掘による地層の堆積状況 (北から)



第 18 図 引田遺跡 21B 区の深掘による地質柱状図

* 柱状図右側に科学分析試料番号と火山灰分析および放射性炭素年代測定の結果を示す。

** 放射性炭素年代測定値は較正した 2σ 年代範囲

第5章 総括

当遺跡は戦時中の開墾工事による遺物発見と1985年の圃場整備事業時の立ち会い調査によって遺跡の内容が明らかになってきている。今回の調査を行なった21A区は圃場整備の立ち会い調査が行われた字引田6の1と同13に隣接する。6の1の地番からは縄文前期から晩期の土器および石器と弥生前期の遺物が出土している。13の地番からは縄文時代晩期の遺物が出土している。また、これらの地番の部分で遺構として縄文時代中期の埋設土器および縄文時代の時期不明の配石遺構が検出されている。

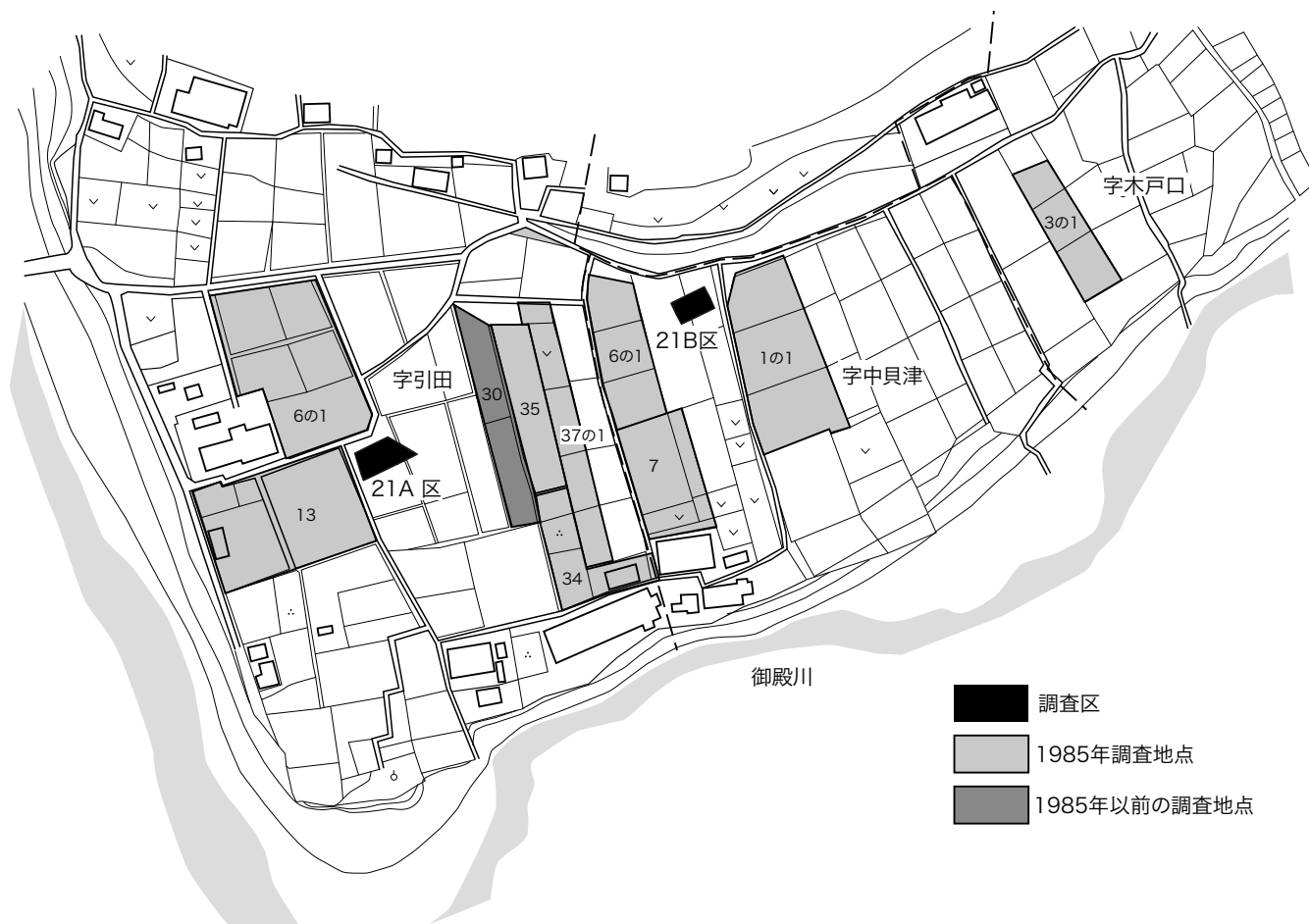
これらの出土遺物と今回の調査と比較する。21A区の遺構の出土土器はほとんどが条痕文土器で中世の山茶碗が2点出土している。遺構外出土土器は大部分条痕文土器であり、縄文中期から晩期の土器が数点出土している。石器類としては縄文時代の石器類が出土し、弥生時代石器として磨製石斧が出土している。これらの遺物は周囲で過去に確認された遺物群に含まれるものである。082SK・085SKから条痕文土器の甕が一個体出土し、土器棺墓と考えられる。圃場整備時の調査において37の1で土器棺墓と推定される条痕文土器2点が出土し、復元されている。この調査によって21A区周辺で出土した遺物は現在設楽町立民芸館に保管され、保管用コンテナ20箱となる。21A区の調査面積は狭いことを考慮しても出土遺物は過少である。21A区では基盤面が水平に削平され、部分的に深く掘り込まれていることから、圃場整備時に遺構が消失し、遺物が失われたことが推測される。

21B区周辺では圃場整備時に3ヶ所の地番で調査が行われている。中貝津1の1から中世の山茶碗、同6の1と7から弥生時代前期の土器が出土している。21B区では縄文土器が1点のみ出土している。21B区出土遺物はわずかであり、周辺でも同様な状況である。21B区の旧地形は山地斜面であることは遺構が少ないことと合致する。

今回の調査によってこれまで引田遺跡で確認されなかった旧石器時代の可能性がある遺物が少量ながら検出された。また、中世の遺構・遺物が検出された。

東栄町内においては旧石器時代遺物は中林遺跡で細石核と石刃が出土している。この遺跡は発掘調査は行われておらず、表面採取資料である。今回の旧石器時代の可能性のある削器および小形の石核の出土は発掘資料としては町内初資料となる。当遺跡の遺跡立地と地質的な状況など今後の地域内における調査の参考になるものである。

中世の遺物は東栄町内の遺跡で多く出土しているが、古窯、城廓趾を除いて発掘調査等で確認されていない。21A区で中世の掘立柱建物が確認されている。東栄町内では初例と考えられる。遺跡周辺では山茶碗などが出土しているが、遺構に伴うものではない。柱穴内より中世初期の山茶碗が出土している。町内には奥三河地域で唯一のブヤキ古窯がある。時期的には当遺跡の出土遺物がやや古く、関連はない。型式として渥美・湖西窯に属し、当地域に接する古窯で生産されたものである。少量の出土であるが、生産窯の特定などが今後検討すべき課題と考える。



第 19 図 1985 年調査範囲 (1/1000)

付表 遺構一覧1

調査区	遺構記号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	埋土
21A	001SK	600535・6054	0.59	0.42	0.48	セクション図参照
21A	011SK	5954	0.32	0.27	0.13	7.5YR2/2黒褐色シルト
21A	012SK	5954	0.35	0.33	0.11	10YR2/1黒色シルト
21A	013SK	5954	0.49	0.34	0.21	7.5YR2/2黒褐色シルト
21A	014SK	5954	0.46	0.38	0.25	5YR1.7/1黒色シルト
21A	015SK	5954	0.50	(0.37)	0.19	10YR2/1黒色シルト
21A	016SK	5954	0.27	(0.25)	0.16	10YR2/1黒色シルト
21A	017SK	5954	0.57	0.49	0.34	7.5YR2/1黒色シルト
21A	018SK	5954・590545	0.33	0.26	0.20	セクション図参照
21A	019SK	5954・590545	0.42	(0.40)	0.19	7.5YR3/2黒褐色シルト
21A	020SK	5954	0.40	0.32	0.40	セクション図参照
21A	021SK	5954	(0.89)	0.59	0.09	セクション図参照
21A	022SK	5954	0.28	0.24	0.08	7.5YR3/2黒褐色シルト
21A	023SK	5954・595540	1.16	0.66	0.11	セクション図参照
21A	024SK	595540	0.23	0.21	0.05	10YR1.7/1黒色シルト
21A	029SK	590545	0.49	(0.41)	0.06	5YR2/2黒褐色シルト
21A	030SK	590545	0.30	0.26	0.18	7.5YR2/1黒色シルト
21A	031SK	590545	0.67	0.50	0.20	セクション図参照
21A	032SK	590545	0.48	0.44	0.17	セクション図参照
21A	033SK	590545	0.40	0.30	0.12	10YR2/1黒色シルト
21A	034SK	590545・585545	0.28	0.23	0.02	10YR1.7/1黒色シルト
21A	036SK	590545	0.29	0.27	0.11	10YR2/1黒色シルト
21A	037SK	590545	0.35	0.24	0.23	セクション図参照
21A	038SK	590545	0.42	0.28	0.22	10YR2/2黒色シルト
21A	039SK	590545	0.27	0.26	0.14	10YR1.7/1黒色シルト
21A	040SK	595545	0.41	(0.18)	0.13	10YR3/2黒褐色シルト
21A	041SK	595545	0.60	0.41	0.41	セクション図参照
21A	042SK	595545	0.26	0.19	0.16	10YR2/2黒色シルト
21A	043SK	595545	0.38	0.37	0.37	セクション図参照
21A	044SK	595545	0.55	0.39	0.12	7.5YR3/2黒褐色シルト
21A	045SK	595545	0.33	0.27	0.13	7.5YR2/2黒褐色シルト
21A	046SK	595545	0.39	0.36	0.10	7.5YR2/2黒褐色シルト
21A	047SK	595545	0.25	0.22	0.10	10YR1.7/1黒色シルト
21A	048SK	595545	0.34	0.26	0.16	7.5YR2/2黒褐色シルト
21A	049SK	595545	0.15	0.14	0.08	10YR1.7/1黒色シルト
21A	050SK	595545	0.44	0.35	0.12	7.5YR2/2黒褐色シルト
21A	053SK	595545	(0.67)	0.47	0.12	10YR3/3暗褐色シルト
21A	054SK	595545	0.53	(0.32)	0.19	10YR2/2黒色シルト
21A	055SK	595545	1.00	(0.18)	0.22	10YR2/1黒色シルト
21A	056SK	595545	0.35	0.31	0.15	7.5YR2/3極暗褐色シルト
21A	057SK	595545	0.29	0.26	0.03	7.5YR2/2黒褐色シルト
21A	058SK	595545	0.56	0.42	0.12	セクション図参照
21A	059SK	595545	0.28	0.24	0.15	7.5YR1.7/1黒色シルト
21A	060SK	595545	0.36	0.25	0.30	セクション図参照
21A	062SK	595545	0.29	0.24	0.16	7.5YR2/2黒褐色シルト
21A	063SK	590545・595545・595550	0.46	0.36	0.13	7.5YR2/2黒褐色シルト
21A	064SK	590545	0.38	0.22	0.10	10YR1.7/1黒色シルト
21A	065SK	590545	0.31	0.26	0.09	10YR2/1黒色シルト
21A	066SK	590545	(0.19)	0.18	0.16	10YR2/1黒色シルト
21A	067SK	590545	0.43	0.36	0.15	10YR2/2黒褐色シルト
21A	068SK	590545	0.31	0.26	0.21	7.5YR3/2黒褐色シルト
21A	069SK	590545・595545	0.36	0.32	0.20	7.5YR2/2黒褐色シルト
21A	070SK	590545	0.29	0.24	0.05	7.5YR2/3極暗褐色シルト
21A	071SK	5955	0.38	0.31	0.31	7.5YR2/2黒褐色シルト
21A	072SK	590545・5955	0.23	0.22	0.16	10YR1.7/1黒色シルト
21A	073SK	5955	2.36	0.77	0.28	セクション図参照
21A	074SK	5955・595550	0.37	0.35	0.17	7.5YR2/2黒褐色シルト
21A	075SK	5955	0.65	0.47	0.24	7.5YR1.7/1黒色シルト
21A	076SK	5955	0.33	(0.21)	0.21	セクション図参照
21A	077SK	5955	0.34	0.27	0.22	10YR1.7/1黒色シルト
21A	078SK	5955	0.48	0.24	0.09	10YR1.7/1黒色シルト
21A	079SK	5955	0.66	0.43	0.16	10YR1.7/1黒色シルト
21A	080SK	590555	0.43	0.40	0.17	10YR2/1黒色シルト
21A	081SK	590555	0.54	0.50	0.10	7.5YR2/1黒色シルト
21A	082SK	590555	1.07	0.65	0.04	7.5YR2/2黒褐色シルト
21A	083SK	590555	0.67	0.54	0.29	セクション図参照
21A	084SK	590555	0.35	0.31	0.16	7.5YR1.7/1黒色シルト
21A	085SK	590555	0.57	0.39	0.05	7.5YR2/2黒褐色シルト

付表 遺構一覧 2

調査区	遺構記号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	埋土
21A	086SK	590545・5955	0.34	0.29	0.11	7.5YR1.7/1 黒色シルト
21A	087SK	5955	0.49	0.39	0.12	7.5YR2/2 黒褐色シルト
21A	088SK	5955	0.24	(0.22)	0.14	セクション図参照
21A	089SK	585550・5955	0.55	0.31	0.25	7.5YR1.7/1 黒色シルト
21A	090SK	585545	1.97	0.68	0.14	セクション図参照
21A	092SK	585545	0.29	0.24	0.16	7.5YR2/2 黒褐色シルト
21A	093SK	585545	0.54	0.28	0.12	7.5YR1.7/1 黒色シルト
21A	094SK	585545	0.41	(0.31)	0.03	7.5YR1.7/1 黒色シルト
21A	095SK	5954	0.34	0.25	0.11	10YR2/2 黒褐色シルト
21A	097SK	585550	1.11	0.58	0.17	7.5YR2/2 黒褐色シルト
21A	098SK	585550・5955・585555	1.46	0.54	0.18	7.5YR2/2 黒褐色シルト
21A	099SK	590545	0.24	0.21	0.06	7.5YR2/2 黒褐色シルト
21A	100SK	590545	0.37	0.31	0.12	7.5YR3/2 黒褐色シルト
21A	101SK	595545	0.46	(0.39)	0.27	7.5YR2/2 黒褐色シルト
21A	102SK	595545	0.67	0.52	0.04	7.5YR1.7/1 黒色シルト
21A	103SK	595545	0.52	0.41	0.08	7.5YR1.7/1 黒色シルト
21A	104SK	590545	0.26	0.23	0.13	7.5YR2/1 黒色シルト
21A	105SK	585545	0.33	0.24	0.05	7.5YR1.7/1 黒色シルト
21A	106SK	5954	0.22	0.21	0.06	7.5YR2/3 極暗褐色シルト
21A	107SK	585550	0.33	0.30	0.07	7.5YR2/2 黒褐色シルト
21B	108SK	525675・530675	(2.69)	0.90	0.83	7.5YR1.7/1 黒色シルト
21B	109SK	525675・530675	(0.72)	0.32	0.17	7.5YR1.7/1 黒色シルト
21B	110SK	525675・530675	(0.35)	(0.21)	0.29	7.5YR2/2 黒褐色シルト
21B	111SK	530675	0.44	0.41	0.19	7.5YR2/2 黒褐色シルト
21B	112SK	530675・5368	0.36	(0.33)	0.13	7.5YR2/1 黒色シルト
21B	113SK	530675	0.47	(0.38)	0.26	7.5YR2/1 黒色シルト
21B	114SK	530675	0.45	0.29	0.20	7.5YR2/1 黒色シルト
21B	115SK	530675	0.86	0.56	0.40	7.5YR2/2 黒褐色シルト
21B	116SK	530675	0.62	(0.31)	0.22	7.5YR2/1 黒色シルト
21B	117SK	5367・535670	0.44	0.38	0.19	7.5YR2/1 黒色シルト
21B	118SK	5367・535670	0.36	0.32	0.13	7.5YR2/1 黒色シルト
21B	119SK	5367・535670	0.73	0.61	0.11	7.5YR2/1 黒色シルト
21B	120SK	535670	0.46	(0.26)	0.13	7.5YR2/1 黒色シルト
21B	121SK	535670	0.30	0.25	0.17	7.5YR2/1 黒色シルト
21B	122SK	535665	0.29	0.24	0.07	7.5YR1.7/1 黒色シルト
21B	123SK	530665	0.41	0.38	0.20	7.5YR2/1 黒色シルト
21B	125SK	530665	0.91	0.75	0.26	セクション図参照
21B	126SK	530665	0.86	0.55	0.26	セクション図参照
21B	127SK	5367	0.42	0.41	0.19	セクション図参照
21B	128SK	530675・535675	0.96	(0.37)	0.23	7.5YR2/1 黒色シルト
21B	129SK	530675	0.41	0.31	0.10	7.5YR2/2 黒褐色シルト
21B	130SK	530675	0.38	0.34	0.12	7.5YR2/3 極暗褐色シルト
21B	131SK	530665	0.48	(0.29)	0.14	7.5YR2/2 黒褐色シルト
21B	132SK	530665	0.53	0.46	0.16	7.5YR2/1 黒色シルト

付表 遺物一覽

図版番号	調査区	遺構	時代(種)	器種	備考	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調 外(表)
1	21B	130SK	縄文	深鉢	-	-	-	(6.2)	7.5YR6/4にぶい橙
2	21A	検出1	縄文	深鉢	-	-	-	(2.4)	7.5YR7/4にぶい橙
3	21A	検出1	縄文	鉢	-	-	-	(1.4)	7.5YR6/3にぶい褐
4	21A	検出1	縄文	深鉢	-	-	-	(2.7)	10YR6/3にぶい黄橙
5	21A	検出1	縄文	深鉢	-	-	-	(3.2)	7.5YR5/4にぶい褐
6	21A	検出1	縄文	深鉢	-	-	-	(6.3)	10YR7/4にぶい黄橙
7	21A	南壁	縄文	深鉢	-	-	-	(3.4)	7.5YR7/4にぶい橙
8	21A	検出1	縄文	深鉢	-	-	-	(4.7)	10YR6/4にぶい黄橙
9	21A	013SK	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(2.5)	7.5YR5/2灰褐
1	21A	031SK	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(3.2)	10YR7/4にぶい黄橙
11	21A	043SK	弥生	深鉢	条痕文土器	-	(4.4)	(4.0)	7.5YR4/1褐灰
12	21A	046SK	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(2.8)	10YR5/2灰黄褐
13	21A	074SK	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(3.3)	10YR5/4にぶい黄褐
14	21A	074SK	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(5.1)	5YR5/8明赤褐
15	21A	074SK	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(6.7)	5YR6/6橙
16	21A	078SK	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(5.2)	10YR7/3にぶい黄橙
17	21A	074SK	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(8.8)	5YR6/6橙
18	21A	082SK	弥生	深鉢	条痕文土器	(30.6)	(7.6)	(42.0)	7.5YR7/3にぶい橙
19	21A	検出1	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(3.7)	7.5YR6/4にぶい橙
2	21A	攪乱	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(4.2)	2.5Y3/3暗オリープ褐
21	21A	攪乱	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(4.4)	7.5YR6/4にぶい橙
22	21A	検出1	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(4.4)	2.5Y5/2暗灰黄
23	21A	検出1	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(3.6)	7.5YR6/4にぶい橙
24	21A	検出1	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(3.4)	2.5Y7/3浅黄
25	21A	検出1	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(5.0)	7.5YR6/3にぶい褐
26	21A	検出1	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(4.4)	10YR6/3にぶい黄橙
27	21A	検出1	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(5.7)	10YR4/1褐灰
28	21A	検出1	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(5.5)	7.5YR4/4褐
29	21A	検出1	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(5.8)	7.5YR6/6橙
3	21A	検出1	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(5.0)	10YR5/3にぶい黄褐
31	21A	検出1	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(4.0)	7.5YR6/4にぶい橙
32	21A	検出1	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(4.4)	10YR6/4にぶい黄橙
33	21A	東壁	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(4.7)	10YR6/3にぶい黄橙
34	21A	東壁	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(5.5)	7.5YR6/6橙
35	21A	東壁	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(5.4)	10YR7/3にぶい黄橙
36	21A	北壁	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(5.4)	10YR5/2灰黄褐
37	21A	攪乱	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(5.4)	7.5YR7/4にぶい橙
38	21A	攪乱	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(7.1)	7.5YR5/4にぶい褐
39	21A	攪乱	弥生	深鉢	条痕文土器	-	-	(6.0)	10YR6/4にぶい黄橙
4	21A	検出1	弥生	深鉢	条痕文土器	-	(5.6)	(2.8)	10YR6/4にぶい黄橙
41	21A	南壁	弥生	深鉢	条痕文土器	-	(7.2)	(2.2)	7.5YR5/8明褐
42	21A	検出1	縄文	深鉢	条痕文土器	-	(8.6)	(2.6)	7.5YR6/3にぶい褐
43	21A	075SK	中世	碗		(16.0)	-	(4.9)	2.5Y7/2灰黄
44	21A	083SK	中世	碗		(17.6)	-	(3.6)	2.5Y7/1灰白
45	21A	検出1	中世	碗		-	-	(1.7)	釉 5Y8/2灰白
登録番号	調査区	遺構	時代	器種	備考	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
S-1	21A	検出1	旧石器~	削器	-	2.7	1.4	0.45	2.06
S-2	21A	058SK	旧石器~	剥片	-	2.75	2.4	1.2	8.56
S-3	21A	検出1	旧石器~	石核	-	2.8	2.5	1.7	10.16
S-4	21B	検出1	縄文	石錐	-	2.1	3.0	0.9	6.02
S-5	21A	検出1	縄文	石鏃	-	1.9	1.5	0.45	1.03
S-6	21A	検出1	縄文	石鏃	-	1.9	1.1	0.4	0.75
S-7	21A	南壁	縄文	石鏃	-	2.4	2.0	0.6	2.65
S-8	21A	075SK	縄文	不明	-	(1.1)	1.8	0.4	0.75
S-9	21A	検出1	縄文	打製石斧	-	5.8	3.5	1.4	44.52
S-1	21A	攪乱	縄文	打製石斧	-	(7.3)	3.4	1.3	25.96
S-11	21A	033SK	縄文	不明	-	9.6	7.6	3.2	286.68
S-12	21A	099SK	弥生	磨製石斧	-	(8.0)	5.7	3.5	269.48

写真図版

遺構 写真図版 1 ~ 8

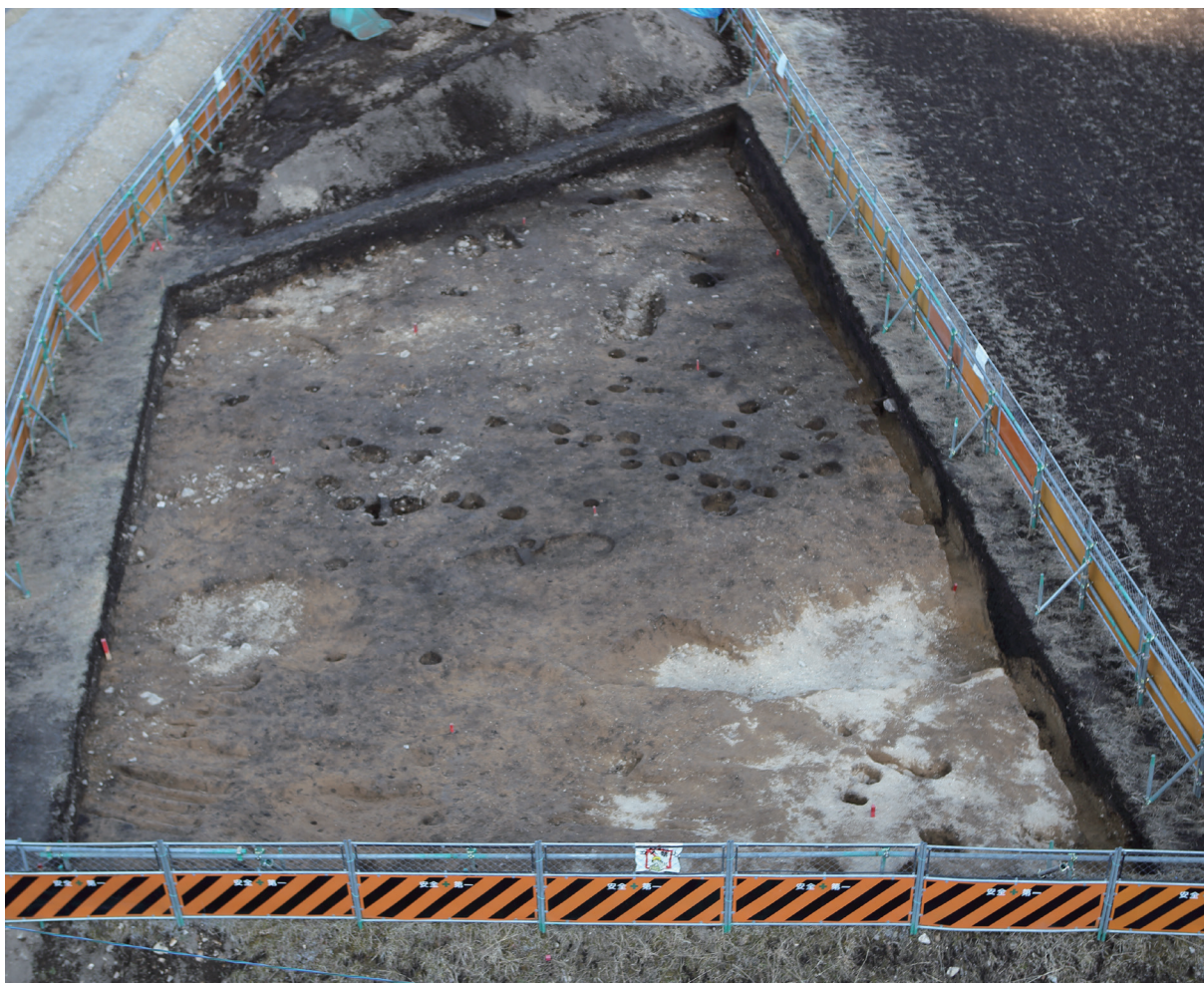
遺物 写真図版 9 ~ 10



遺跡遠景（東より）



遺跡全景（西より）



A区完掘状況（西より）



A区完掘状況（東より）



A区完掘状況（北より）



200SB（北より）



A区検出状況（西より）



A区検出状況（西より）



A区中央部検出状況（北より）



B区完掘状況（南より）



B区完掘状況（北より）



B区完掘状況（西より）



B区検出状況（南より）



B区検出状況（北より）



B区検出状況（東より）



B区検出状況（西より）



A区南壁（北東より）



A区南壁（北西より）



A区南壁西部（北東より）



A区南壁東部（北西より）



A区西壁（北東より）



A区西壁（東より）



B区南壁（北より）



B区南壁（西より）



B区南壁（東より）



B区南壁西半（北より）



B区東壁（西より）



B区東壁（北西より）



001SK（西より）



073SK（東より）



073SK（北より）



073SK 断面（西より）



075SK 遺物出土状況 (西より)



082SK 遺物出土状況 (西より)



085SK 遺物出土状況 (西より)



090SK (南より)



090SK (西より)



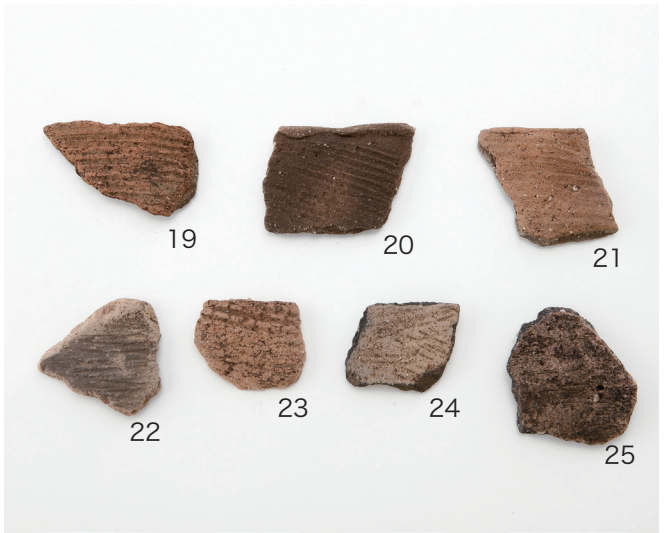
099SK 遺物出土状況 (東より)

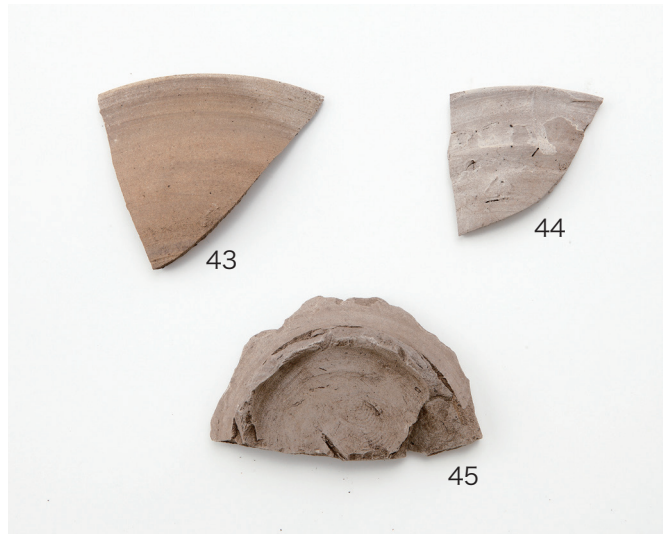


119SK (西より)



119SK (東より)





報告書抄録

ふりがな	ひきだいせき							
書名	引田遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第225集							
編著者名	酒井俊彦							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161							
発行年月日	2024年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経		調査面積	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / "	° / "	調査期間	m ²	調査原因
ひきだいせき 引田遺跡	きたしたらぐんとうえいちょう おおあざつき 北設楽郡東栄町大字月	235628	710005	35° 04' 27"	137° 39' 20"	20230115 ～ 20230331	400	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
引田遺跡	集落遺跡	弥生時代・中世		掘立柱建物 土坑		縄文土器 条痕文土器 山茶碗 削器 石核 磨製石斧		
文書番号	遺跡名	発掘届	発掘許可	調査終了届	遺物発見届	埋蔵文化財 保管証	埋蔵文化財 認定	
	引田遺跡	3埋セ84 3.8.25	3文芸1418 3.9.2	3埋セ159 4.3.31	3埋セ159 4.3.31	3埋セ159 4.3.31	4教生575 4.4.8	
要約	引田遺跡は愛知県の東北部三河山地に所在する遺跡である。遺跡は戦時中より認知され、1985年に圃場整備事業に伴う立ち会い調査が愛知県によって行われている。今回の調査では旧石器時代から中世までの遺構・遺物が確認された。旧石器時代の石器の出土と中世の遺構検出は、今後のこの地域での発掘調査にとって意義あるものである。							

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第 225 集

引田遺跡

2024 年 3 月 31 日

編集・発行 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

印刷 西濃印刷株式会社